

深い学び合い



県中教研の伝統の一つは、会員の学び合いです。これは、ファシリテーション（話し合いを促進する技法）によって築かれた県中教研の不易の価値です。

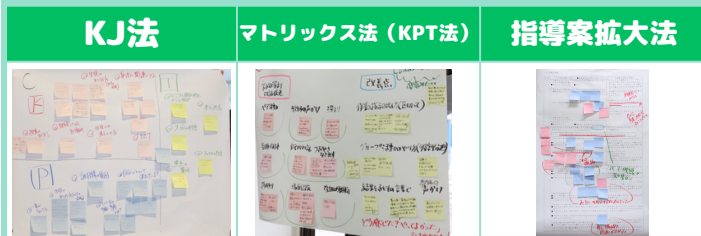
県中教研の指定研究推進事業では、毎年、18～20の指定研究推進委員会が立ち上がり、各郡市で研究授業、研究会での協議会などで会員が積極的に学び合っています。

深い学び合いサイクル
～共に学び合い、共に高め合う～

各教科・領域で「深い学びにいたる生徒の姿」とそれに迫るための「深い学びの技法」を構想します。そして、お互いに授業実践を共有し、研究会で成果を発表します。研究会の授業協議会で得た新たな学びを、自校で実践することで、会員が共に学び合い、共に高め合う深い学び合いのサイクルが活性化されます。



以下は、研究会で実際に用いられていたファシリテーションの方法です。

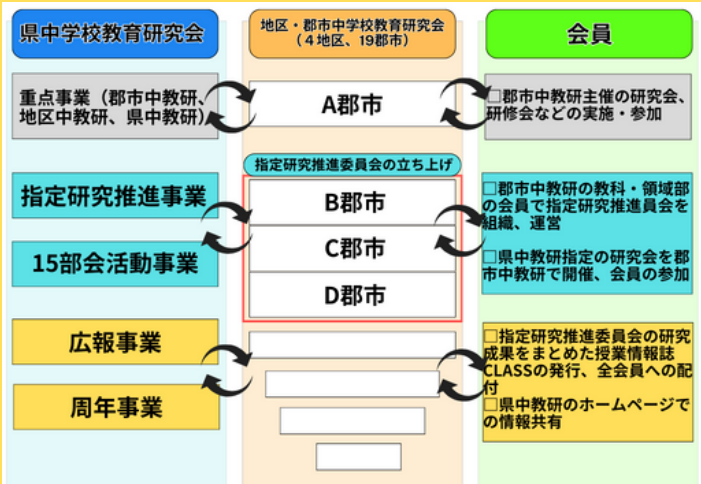


深い かかわり合い



県中教研の強みは、県内の4地区中教研、19の郡市中教研と連携している点にあります。

同じ地区・郡市の教科・領域の先生方が、深くかかわり合い、そして、高め合うネットワークづくりを推進するために、指定研究事業による研究会の開催、授業情報誌の配付などを行なっています。



令和6年度

指定研究事業
研究会予定
(教科・領域)

10月上旬～
11月下旬開催

- 国語(上越、魚沼、新潟、新発田)
 - 数学(上越、長岡・三島、新潟、五泉・東蒲)
 - 道徳(妙高、見附、新潟、村上・岩船)
 - 美術(柏崎・刈羽、新潟)
 - 技術・家庭(長岡・三島、佐渡)
 - 特別活動(小千谷、阿賀野・胎内・北蒲)
 - 総合的な学習の時間(上越、新潟)
- 詳細は、随時お知らせいたします

令和6年度事業リーフレット 新潟県中学校教育研究会

深い学びにいたる授業

～「深い学びの技法」を基に、生徒が自身のよさや可能性を伸ばしていく学びを通して～



3つのポイント

- 生徒のよさや可能性を引き出す
- ✓「深い学びの技法」
- ✓会員の深い学び合い
- ✓中教研の深いかかわり合い



県中教研は、令和5年に創設60周年を迎えました。

これからも県中教研は、地区・郡市中教研と連携し、会員の皆様と共に学び合う研究・研修を推進していきます。

新潟県中学校教育研究会 事務局
〒950-0088新潟市中央区万代1-3-30
万代シティホテルビル3階
TEL・FAX: 025-290-2251
E-mail: ken-ckk@niigata-inet.or.jp
HP: https://niigata-chukyoken.jp



生徒のよさや可能性を引き出す

「深い学びの技法」

県中教研創設60周年記念講演
会講師・田中 博之様(早稲
田大学教職大学院)が提唱さ
れている「深い学びの技法」
を参照・引用

「深い学びの技法」を授業の
中心的な手立てとして講じる

「深い学びの技法」とは何か？また
そのよさは何か？

「深い学びの技法」とは、生徒が**高度な思考操作や認
識の仕方などができるようになるための「学び方」**にな
ります。学習活動を通して、生徒が技法を使えるよう
なることで、深い学びに向かうようになります。

「深い学びの技法」を定着させるため
のポイントとは？

単元・題材で3～4つ程度を選び、組み合わせて、手立
てとして活用しましょう。

目の前の生徒の実態に応じて、生徒のよさや可能性を引き
出すような技法になるように、教科・領域に応じてアレ
ンジしてみてください。

生徒たちが実際に学び方を通して、教科・領域の学習を
深く学び、主体的に課題解決に取り組むようになります。
深い学びの質的な向上を期待できます。

過程 深い学びの20の技法

- | 過程 | 深い学びの20の技法 |
|----|---|
| 設定 | ①学んだ知識を活用して課題や目標を設定する
②知識やデータに基づいて仮説の設定や検証をする
③視点・観点・論点を設定して思考や表現をする
④ R-PDCAサイクルを設定して活動や作品を改善する |
| 思考 | ⑤資料やデータに基づいて考察したり検証したりする
⑥複数の資料や観察結果の比較から結論を導く
⑦視点の転換や逆思考をして考える
⑧異なる多様な考えを比較して考える |
| 解決 | ⑨学んだ知識や技能を活用して思考や表現をする
⑩仲間と練り合いや練り上げをする
⑪原因や因果関係、関連性を探る
⑫学んだ知識・技能を活用して事例研究をする |
| 表現 | ⑬理由や根拠を示して論理的に説明する
⑭学習モデルを活用して思考や表現をする
⑮自分の言葉で学んだことを整理しまとめる
⑯要素的な知識や知見を構造化・モデル化する |
| 評価 | ⑰既製の資料や作品を批判的に吟味検討する
⑱身につけた資質・能力をメタ認知し成長につなげる
⑳学習成果と自己との関わりを振り返る
㉑学んだことを生かして、次の新しい課題を作る |

START

生徒のよさや可能性を踏まえ、
目指す生徒の姿を設定

HOW

「深い学びの技法」を手立てとして講じる

生徒の主体的な課題解決過程

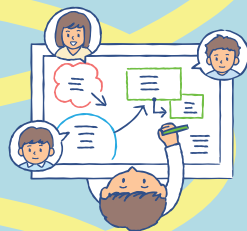
設定

思考

解決

表現

評価



LEARN MORE

生徒のよさや可能性を
引き出す

生徒側の視点に立つと、理想の学びは？

生徒の学習理解度が高まる状況は、自ら学
習を計画・実施したり、他者に説明したりし
ている状態と言われています。記憶するだけ
の学びでなく、応用したり、評価したりする
高度な思考操作をともなった学びです。
(ラーニング・ピラミッドの理論より)



生徒のよさや可能性を引き出す学びの実例は何か？

特別活動を例に考えてみましょう。体育
祭の応援・ダンスの活動で生徒主体のパフ
ォーマンスができるようになる理由は何で
しょうか？それは、**先生方が生徒たちのよ
さや可能性を引き出し、生徒たちの力、
計画したり、パフォーマンスを分析・評価
したりできるように支援しているからで
す。**



生徒のよさや可能性を最大限引き出すとどう変わる？

上の例を授業で応用すると、先生方が
目の前の生徒たちのよさや可能性を引き
出すことがポイントになります。

例えば、「情報活用能力」が高い生徒
たちならば、「深い学びの技法」の⑤
「資料やデータの考察」を取り入れるこ
とで、生徒たちが個々に考察する姿を期
待できます。「かかわる力」が高い生徒
たちならば、技法の⑩「練り合い」を取
り入れることで、生徒たちの力で協働的
に学ぶ姿を期待できます。



GOALS

深い学びにいたる生徒の姿